

今回のテーマ

書籍紹介 ～スマホが学力を破壊する～ 著:川島隆太氏(東北大学加齢医学研究所所長)

皆さんもご存知、川島先生の本が3月に発売になりました。インターネットの通販サイトで新書ランキング2位に入っていたので、相当な人気・反響があります。社会的に関心が高まってきているのですかね。新書なので読みやすく、内容も非常に充実しており、あつという間に読めてしまいます。今回はその紹介と書評を書いています。

スマホをやめるだけで偏差値が10上がります

帯に大きく書かれていて興味をそそります。皆さんも周知のとおり、スマホ利用と学力については相関関係・因果関係があることは解明されてきました。解析方法やデータの読み方、そこから危惧される内容など詳細に書かれています。今回は書籍内で使われていたデータや川島先生のご意見で気になった点を何点か。

<1点目> スマホをやめると偏差値があがる

一時期調査しただけではスマホと学力に相関関係があることはわかったが、因果関係があるかどうかどうかはわかりません。そのため、追跡調査をすることで因果関係があるかどうか調べていきました。平成26年度～27年度までの追跡調査でスマホ使用を「非使用」「導入」「中止」「使用」の4群に分け、国語・社会・数学・理科の偏差値の変化を見た場合、「非使用」群と「中止」群は偏差値があがっています。しかし、「導入」と「使用」は偏差値が下がることが明らかになりました。これで因果関係がはっきりしてきました。

→ 私たちのような啓発者としてこのデータや因果関係は非常に有効と考えます。特に中学生や高校生で使用し始めた子で依存傾向がある子たち、学力低下が顕著になってきた子の保護者に対しては希望のデータになるかと思えます。「(スマホを) やめても上がらない」「どうせ変わらない」ではなく、「やめたら上がるんだ!」という事実は藁をもすがる思いの子どもや保護者にとって希望です。

<2点目>短時間使用でも顕著に学力が下がる「LINE」

スマホ利用と学力の相関を見た場合、使用時間が1時間未満のみ、学力が少しだけ上がります(書籍内では「肩」と表現)これは自己管理ができていて、自己抑制力が高い生徒という風に解釈し、そのような子たちは成績が高く当然です。しかし、LINEを同じように比較した場合、使用時間が1時間未満のみでも成績が下がります。つまり肩が存在しません。一度でも使ってしまうと使用時間に関わらず学力が低下します。

→ 子どもたちのスマホはじめと同時にほとんどの子たちがLINEはじめをします。それほどまでに大きな影響を及ぼすLINEを仕方ないで済ませてはいけませんね。啓発者としてデータを活用しながらそのエビデンスをしっかりと伝えていかなければいけません。

まだまだ書き足りませんし、データをもっと載せたいのですが、紙面の関係でこの辺で…ぜひ購入してみてください。(集英社新書)

認定課題 続々提出中!

青森・埼玉講習会が終わり、認定課題提出が続いています。また4月になれば忙しい日々になるかと思えます。ぜひ春休み中に!つくれば必ず勉強になります!私も審査委員会に携わっているのですが、それぞれ持ち味を生かし、工夫されたものです。授業や講演で使えるものを一つ、頑張りましょう。